

社会問題「ファッションロス」を デザインで解決に向ける



古着からピーマン宣言

資源効率を高めるため、最初によく使います。
それでも不要になったら回収BOXにいられます。
私たちが、夏によく使うお洋服をします。
古着は社会の役に立ちます。

地域共生で
新しい領域への
事業を創出する。

2023.7.12
株式会社鈴六
株式会社鈴六



※上図は株式会社ニューモアの運営する障害福祉 × デザインの協働チーム「想造楽工」が手がけました。

岡崎市では、古着の回収率が 32%と低くほとんどが焼却処分されています。CO2 排出量は焼却時より製造時の方が多いと言われており、まだ着られる服を燃やして新しい服を作る行為は社会的にも大きな問題です。鈴六は社会問題「ファッションロス」をデザインで解決すべく、地域共生による積極的な資源循環の取り組みを進めています。

ペットボトルや古紙の回収ボックスは街中でもよく見かけますが、古着の回収ボックスの設置はまれ。鈴六は、女性受けするきれいなデザインの回収ボックスの開発・設置で回収率アップを狙います。回収ボックスの開発にあたって、愛知産業大学 造形学部スマートデザイン学科森先生にデザインを依頼したところ、間伐材活用の提案を受けました。岡崎市の 6 割が森林で、その 6 割が人工林、地元の資源である間伐材を使用することで、森林資源の循環と森林保全の促進にも貢献できるのです。

開発した回収ボックスプロトタイプを設置に際しては、SDGs セミナーやあいち環境塾で知り合った地域のネットワークが活き、初めての試みでありながら JINS 岡崎イオンモール店やスギ薬局岡崎欠町店に設置することができました (JINS 店舗では 2024 年 2 月現在設置していません)。清潔感があり木材の温もりを感じられる回収ボックスは、店舗スタッフにも来店されたお客様にも好評。手ごたえを感じた鈴六では、更なる設置拡大に向け、株式会社もりまちとともに量産型回収ボックスの開発に取り組んでいます。

株式会社鈴六

社会問題「ファッションロス」をデザインで解決に向ける

岡崎市内のネットワークを活かし、回収された古着はリユース、リサイクル、そして新たな製品へとつながっています。特に力を入れているのは、手作業による選別作業です。マニュアルときめ細やかな研修により 90 種類もの分別を実現しており、選別のレベルが高いことが高付加価値化につながり、鈴六の強みとなっています。

選別された古着の行き先として最も多いのはリユース、約 50%が東南アジアに輸出されて再利用されています。「鈴六経由のユーズドインジャパン」衣類はブランド価値が認知され、先方の要望により梱包資材に鈴六のロゴを印刷して出荷しているほどです。

残りのうち約 30%はフェルトに形を変えてリサイクルしています。一度作った繊維をフェルトとして使い続けることで焼却処分のタイミングが後ろ倒しになり、使用期間に対する CO2 排出量削減にも貢献しています。ビジネスパートナーである株式会社清水フェルト工業が開発した特殊フェルト、ファイバーソイルは地域でのピーマンの栽培にも活用されており、岡崎市内の飲食店で実際に食べることもできます。わたしたちが回収ボックスに持ち込んだ古着が、ピーマンの栽培に一役かってわたしたちの食事になって戻ってくると想像するとわくわくしますね。さらに、残りの約 15%は工業用ウエスに加工され、回収された古着はほとんどが再利用されています。

鈴六の取り組みは、地域内での古着回収から始まり、地域の事業者や資源と協働しながら、地域資源の最大限の活用・循環に役立っています。



衣類は焼却処分する際のCO2排出量よりも、製造する際のCO2排出量の方が多いと言われています。一度作られた衣類・繊維を、衣類として長く使い続けることはCO2排出量削減にも貢献します。



鈴六では女性従業員も多く活躍しています。きめこまやかな社員教育によってレベルの高い分別を実現。分別ラインに配置する人員には余裕を持たせ、やむなく急な欠勤等が発生せざる得ない社員も働きやすいよう配慮しています。



SUZUROKU
Co., Ltd.

株式会社鈴六

岡崎市大平町堤下 73 番地1

<https://suzuroku.studio.site/>

株式会社清水フェルト工業 <https://www.sfk.co.jp/>

株式会社ニューモア <https://newmor.net/>